

2) ガバナンス部門

鈴木 敦（准教授・憲法）

2021 年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

自身の研究活動として、科研費・基盤研究(C)「アメリカ側占領関係者の聞き取り調査記録を用いた日本国憲法制定過程の再検討」に基づき、日本国憲法体制成立史に関する研究を行った。本年度は、主に日本国内で利用可能な資料の調査・収集及び整理・分析を進めた。新型コロナウイルス感染症の蔓延状況のため、当初計画の国内出張を通じた資料調査は実施することができなかったものの、活字化された文献等の収集に注力することにより、邦語を中心とする文献資料収集については一定の成果をあげることができた。また、これと並行して、既に収集済みの関係資料の分析を進めた結果、異なる状況下に行われた日米双方の聞き取り調査の質的な違いを確認することができ、これまでの成果の一部を、「日本国憲法の英訳文に関する一考察—9 条 2 項の『war potential』について」として発表した(曾我部真裕＝赤坂幸一＝櫻井智章＝井上武史編『大石眞先生古稀記念論文集 憲法秩序の新構想』(三省堂、2021 年)70-104 頁)。

また、これに加えて、戦後の日本憲法学の歩みを歴史的・多角的に描き出すことを試みる共編著、鈴木敦＝出口雄一編『「戦後憲法学」の群像』(弘文堂、2021 年)を上梓したほか、憲法に関する入門的学習教材である穴戸常寿＝曾我部真裕編『憲法演習サブノート 210 問』(弘文堂、2021 年)に分担執筆者として参加した。

その他(教育活動ほか)

教育活動としては、全学教育科目として「社会の認識(日本国憲法)」(2 単位)を、法学部専門科目として「演習Ⅰ」(2 単位)・「演習Ⅱ」(3 単位)・「憲法Ⅱ」(2 単位)を、研究大学院科目として「憲法学特殊演習」(2 単位)・「公法総合演習Ⅰ」(2 単位)・「公法総合演習Ⅱ」(1 単位)をそれぞれ担当した。なお、本年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延状況が継続したことを踏まえて、ほとんどの講義と演習をオンライン形式で実施した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
「日本国憲法の英訳文に関する一考察—9 条 2 項の「war potential」について」	曾我部真裕・赤坂幸一・櫻井智章・井上武史編『大石眞先生古稀記念論文集 憲法秩序の新構想』(三省堂)	2021 年	70-104 頁

図書

書名	出版社	発行年	単／共
「戦後憲法学」の群像	弘文堂	2021 年	共編著
憲法演習サブノート 210 問	弘文堂	2021 年	共著